

和名倉百年の森

wanagura hyakunen no mori

NPO 法人百年の森づくりの会

2023
4.1

45号

巻頭言・お詫び……………1 / 明治神宮の森見学会……………2～3 /
本多静六と明治神宮の森づくり……………4～5 / 和名倉山ワーク……………6～8 /
会員便り……………9 / 年間スケジュール……………10

明治神宮 百年の森を見学して

理事長 小林 公彦

明治天皇が崩御され、東京にも御陵に代わるものとして1920年（大正9年）に明治神宮と共に鎮守の杜が造営され、100年の年月が経過しています。昨年11月13日にその造営に携った本多静六博士の功績を鑑みるため、明治神宮の森を見る機会を得ました。

当時はマツが点在する荒地だったそうですが、本多静六博士の天然更新の考えを導入した100年後の今、明治神宮の森がどのようになっているか観察するのを楽しみにしていました。

当日は原宿駅の一の鳥居に集合しました。この付近は代々木練兵場のあったところで、一の鳥居の右側には大きなクスノキがあります。この木は本多静六博士の生まれ故郷である菖蒲町河原井から持ってきた木で、今でも健在で大きく育っていました。

一の鳥居から入る南参道は「神宮の表口たるべき」ところであり、風致および交通の両面で重要な地区と位置づけられています。参道の奥へと進むほどに鬱蒼と繁る森の厳肅さが感じられるよう、南参道から御橋付近では明るい気分を醸す

植栽にしようとカエデ・ウベメガシ・エゴノキ・サカキなど紅葉の美しい落葉広葉樹が植えられています。

また、神社に暗い鬱蒼としたイメージに色や形に変化を持たせる工夫をして、明るい風景にしようと、神橋下を流れるせせらぎの水流設計を施したそうです。

南参道を外れて、西側の旧道にすすむと100年経過して大きく成長したカシやシイなど常緑広葉樹の壮大な森を見ることができました。まるで密林です。天然更新の第1段階のマツが残っているところもあり、ケヤキやイチヨウなどの大木と混生した森が続いているところもありました。

また、北参道の入口の鳥居付近にはムクノキ・イチヨウのほか、献木された中で最大のイヌマキが大きく育っていました。どっしりした重量感のある木です。

ほぼ一周して、本殿への向かう二の鳥居（大鳥居）には当時陸軍省が所管する白金火薬庫跡地から移植したアカガシ（樹高10.8m、目通直径45cm）の大木移植樹があります。白金の土地は元高松藩主松平家の下屋敷で良質な巨木に富んで

いたそうです。白金からの移動距離は10km、馬6頭での夜間作業により、大正6年5月24日から6月6日の14日間かけて植栽を終了した記録が残っています。

今回、ガイド役をお引き受け下さった渋谷克美氏には、100年経過した明治神宮の森をきめ細かくご案内いただき、明治神宮の森の素晴らしさを実感することができました。改めて感謝申し上げます。

「百年の森づくりの会」の植栽した約7千本の木々が100年後はどのような森になっているのか楽しみです。

これからも地道な活動を続けていき、森づくりの大切さを啓蒙していければと思います。

【お詫び】

会報の前号(第44号)に記載の誤りがありました。総会・記念講演会の講演録の表題が「本多静六」となっておりましたが、正しくは「本多静八」でした。お詫びして訂正させていただきます。

公開講座（令和4年11月13日）

明治神宮の森見学会

例年、公開講座を開講して森や環境、秩父地域について勉強を重ねています。いつもは室内での座学が多かったが、今回は久しぶりに屋外で公開講座を実施しました。

11月13日（日）、本多静六博士が明治神宮の鎮守の杜の造営に携って100年が経過した「明治神宮の森」の見学会を実施しました。



中央がガイド役の渋谷克美さん 熱心に説明を聞いている会員



一の鳥居の右側 本多静六博士の生まれ故郷である葛蒲町河原井から献木されたクスノキ

見学会のガイド役として本多静六博士を顕彰する会会長の渋谷克美氏にお願いし、当日は13名の会員に参加いただきました。

原宿駅の一の鳥居に集合し、まず鳥居の右側の大きなクスノキの説明からスタート。一般の参拝者が通る南参道から少しはずれ、西側にある旧道を進み、明治神宮の壮大な森の木々を見ながら渋谷さんの話に熱心に聞きいってました。

植樹する前の状況は畑地と荒地が8割で、残り2割は練兵場であったようです。そこから100年先を見通して、第一段階マツ類から第四段階カ



ナラ枯れ対策
ナラ枯れから貴重な木を守るためカシナガトラップ(虫の生態を利用した大量捕獲装置)とシート被覆を併用した対策を行っている。

副理事長 守谷裕之

シ・シイ・クスノキの天然林相となるよう緻密な設計の元に進められた。全国青年団による奉仕作業1団体60人で10日間、2府28県、63団体・約4000人が動員された。まさに、森づくりを見た思いでした。



広大な敷地から出た枯れ葉は箒で集め、全て土に戻されている。



明治神宮一の鳥居前にて 見学会参加者

参加者の感想

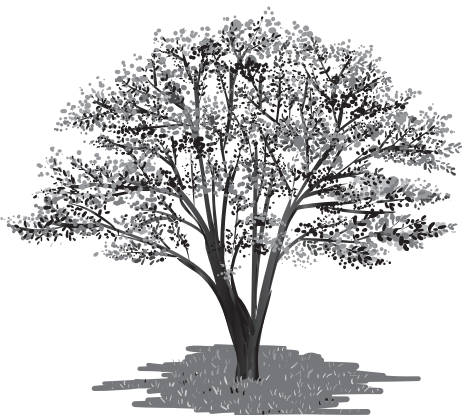
本多（折原） 静六博士が菖蒲の出と聞き、6月総会直後に詣でたが、仮囲い工事中でクスノキは確認できなかった。今回渋谷克美先生のご案内で第一鳥居前の菖蒲・加須からの両献木に対面でき感無量でした。さらに林相の遷移を樹木数の推移の具体的な数字で知り、先人たちの叡智と努力に驚嘆するばかりです。植え替えれば良しとするミテイゲーションを誤用した外苑の事業は残念です。配偶者を帯同しての見学会でしたが百年の森づくりの会が飲み会の口実でないことは理解してもらえたようです。（高橋 秀明さん）

私はこれまで人が関与した森は永遠に人が関与し続けなければならぬものだと考えていましたが、明治神宮の常緑広葉樹林が自然循環する森を見学して、これからの森を守る活動の大きな励みとなりました。（鈴木 一博さん）

簡にして要を得た渋谷さんの説明で思った以上に有意義でかつ楽しめました。森づくりはまさにこうあらねばと思いつつ百年の森づくりの会との相性も感じた次第です。数年後

にまた企画してもらえるとありがたいですね。（浅野 純次さん）

ガイドの渋谷さんが御用意して頂いた資料には明治神宮の森の自然遷移の4段階の予想図があり、渋谷さんには、設計リーダーの本多静六のそこに示した意図、そして百年たつて、その通りの森が育ってきたことを、参道を歩みながら、個々の樹々の様子を語りながらお話しして頂き、すくとんと気持ちが悪く着く時でした。清々しさを感じ又先人たちの努力と貢献に感謝しながら、御社殿のお参りして、帰途につきました。有難う御座いました。（東 克明さん）



本多静六と明治神宮の森づくり

令和4年11月13日

本多静六博士を顕彰する会 渋谷 克美

1 明治神宮境内地の変遷

江戸時代、熊本藩主加藤忠広(加藤清正の3男)の別邸であった土地を、3代将軍徳川家光は彦根藩主井伊直孝に下賜する。その当時は周囲はマツ並木、中央にモミ、カシ、マツ林や雑木がある状態で、西側と北側は畑地、東側と南側は広い庭園が広がっていた。

明治17年(1884)、宮内省はこの土地を買い上げ、御料地(皇室の所有地)としたが、現在の御苑一帯を除いては畑がほとんどで、荒地に近い状態が続いていた。

2 明治神宮造営までの変遷

- 明治45年(1912)7月30日明治天皇崩御、大正3年(1914)4月9日昭憲皇太后崩御
- 大正2年(1913)12月、神社奉祀調査会が設立(初代会長原敬、2代会長大隈重信)
明治神宮候補地の選定 候補地：代々木(東京)、朝日山(埼玉県飯能市)、箱根(神奈川県)、国府台(こうのだい・千葉県市川市)、筑波山(茨城県)、富士山(静岡県)
- 大正4年4月、明治神宮造営局を設置
参与：本多静六(50歳)、技師：本郷高德(38歳)、
技手：上原敬二(27歳・東京農業大学造園学科創業者)
- 大正9年(1920)11月1日、明治神宮創建(竣工)

3 本多静六が目指した神社林の理想像

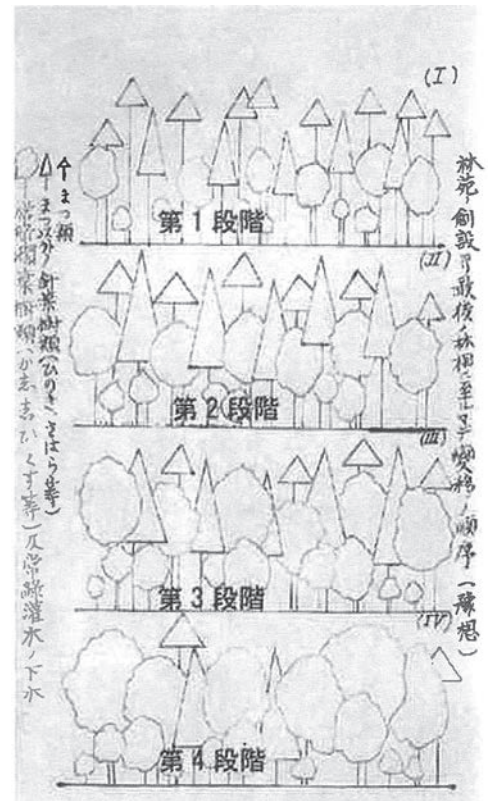
仁徳天皇陵(大阪府堺市、5世紀中ごろ築造の全長約486mの前方後円墳)のような密林・極相状態の原生林

◎神社林の基本は常緑樹(厳か、厳粛)、維持経費を最小限に

● 反対意見：暗く、静かすぎる、公園や庭園のようにすべき
〈反対権を取り入れた改良策〉

色や形に変化をもたせる クロマツ、サワラ、コウヤマキ、イチョウ、エノキ、カエデ、ケヤキ、シデ、ムクノキの補植
〈改良策の代表例：明治神宮の表口・南参道～御橋〉
元は代々木練兵場の一部で、全て新規の植栽による。「中央部に比して幾分明るき気分あらしむる」

改良のポイント：①水流の設計、②新緑・紅葉を美しく(カエデ、サカキ、エゴノキ等)



「境内林苑計画書」より

4 樹木数の推移

年代	経過	本数	備考
大正9年(1920)	完成時	119,913本	(完成時) ① 献木95,559本、② 在来木13,292本、 ③ 移植8,222本(他官庁より)、④ 購入木2,840本 ※ 献木：クロマツ、ヒノキ、サワラ、シイ、シラカシ、 ケヤキ等、移植：旧白金火薬庫(元高松藩下屋敷)
昭和10年(1935)	15年後	70,904本	
昭和47年(1972)	52年後	167,688本	
平成23年(2011)	91年後	36,322本	

全国青年団による奉仕作業：1団体60人・10日間、2府28県、63団体・約4,000人

明治神宮内苑略図(現在)



第一段階：一時的な仮設の森。主木として高くそびえる上冠木は、主として先駆樹種であるアカマツ、クロマツにする。その間に生長の早いヒノキ、サワラ、スギ、モミなどのやや低い針葉樹を交え、下層に、将来の主林木になるカシ、シイ、クスノキなどの常緑広葉樹、最下層には灌木類を植栽する。

第二段階：林冠の最上部を占めていたマツ類は、ヒノキ、サワラなどに圧倒されて次第に枯れる。数十年後にはマツ類に代わってヒノキ、サワラなどの針葉樹が最上部を支配する。マツは点在する。

第三段階：カシ、シイ、クスノキ類の常緑広葉樹が優位に立ち、支配木となるその間に、スギ、ヒノキ、サワラ、モミなどが混じる。まれに、クロマツ、ケヤキ、ムクノキ、イチヨウなどの大木を混生した状態。

第四段階：カシ、シイ、クスノキ類はさらに生長し、100年前後でカシ、シイ、クスノキ類の天然林相になる。

「明治神宮後境内林苑計画」より作図

遠山 益著「本多静六 日本の森林を育てた人」(実業之日本社)を基に作成

2022年度下半期

和名倉山森づくり報告

和名倉山森づくり事業担当 高岡正彦

和名倉山は、64年（昭和39年）と69年（昭和44年）に山火事が発生し、多くの樹木を焼失した。その跡には成長の速いカラマツを植林するなど、山の復興が図られた。同時期、林業の衰退で山での仕事も少なくなり往来が激減し、多くのルートが2m以上のスズタケで覆われ藪の山となってしまった。

そのような和名倉山を以前のような水を育む山に復元するために、97年埼玉大学ワンダーフォーゲル部OB会が活動を始めた。その後、NPO法人百年の森づくりの会として事業を拡大して、00年までに失われた道の復元を行ない、01年には樹木の生長が遅いところに、和名倉山の在来種であるブナの苗を植林し始めた。植林を始めると、鹿による食害に悩まされ、植林よりも、現有樹木を守るほうが先と考え、現在は現有樹木に鹿よけネット巻く作業が主になっている。03年には旧大滝村村有林の管理小屋だった仁田小屋を改修しこの事業のベースキャンプとして使用している。この小屋は会員の力でログハウス風に作り上げられた。

（なお、和名倉山は山頂が県界でない埼玉県山々における最高峰である。）

2021年度上半期

10月23・24日 第45回 ワーク（仁田小屋外壁・応急措置）



仁田小屋は2003年11月に再建され、それからは和名倉における植林活動が飛躍的に充実していった。その仁田小屋が2019年頃から虫食いの木くずを確認していた。

しかし、そのことからコロナ禍が始まり活動を自粛せざるをえなかった。結果3期にわたりワークを中止し、2021年10月からようやく外壁の修理を始めた。（上の写真）

2022年4月に偵察に行った際、虫食いが進み、中のポルトが見える状態となっていた。素人目には、大変危険な状態と判断できた。次回の

ワークでは何らかの手を打たないと考え、まずは専門家に調査してもらい修復の仕方をお聞きしようということとなり、場合によっては間伐材を利用することを予想していた。



5月21・22日 第46回ワーク

事前調査をもとに、専門家も同行してもらい、高校生も含めて、14名の参加であった。

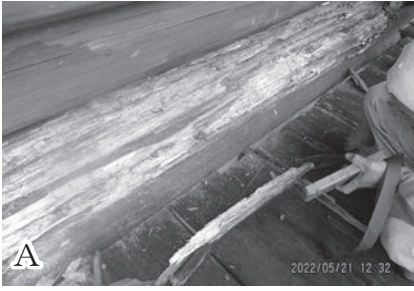
仁田小屋外壁修理

御自身ログハウスを数棟建てている専門家によると、

- ① 損傷している横木の芯部はしっかりしている。
- ② 壁と直交している短部材の損傷が激しい。
- ③ 小屋の自重は分担され基礎コンクリートに荷重は伝達されている。

このことから、作業としては

- A 損傷して脆弱になっている部分を除去する。
- B 空洞になった部分には端材を詰込み隙間をコーキングする。
- C 損傷箇所には防腐剤を塗布する。
- D 雨の当たたる損傷箇所をトタンで被う。



作業道整備

21日は、朝から、しとしと雨が降り続いていたが、高校生が中心で作業道整備を行った。



雨がちよつと激しく降ればすぐに戻ってしまうのですが、この2日間の作業だけでも、活動しやすくなります。さらに、作業道にかかる倒木を除去した。



巻き割り作業

例によって、高校生には、巻き割り体験を行った。今年は3名の1年生が参加してくれた。これまた例によってへっぴり腰だが、生まれて初めての体験ではしゃいでいた。



今回のワークは、久しぶりのにぎやかさで、アフターコロナを予感できた。この仁田小屋を大切にそして愉快的な場所にと、みんなで誓った。(と思う。)

8月6・7日 第47回ワーク（追加）

当初、仁田小屋の外壁補修に手間がかかるだろうと予想して、追加のワークを計画していた。しかし、前述のように、当面の応急措置は終えたが、すでに案内も抱えていることから、倒木材を利用してテラス床を設置しようということとなった。

テラス床の設置

小屋に向かって左に回り込むテラス通路があるのだが、はじめの2mほどには屋根がなく、雨ざらしである。この床が長年の風雨によって、朽ちてしまった。しばらくは、仁田小屋建設時の残りの角材と、スノコによって応急措置で通路を確保していた。今回小屋の近くで倒れた倒木材を使って、補修する案が持ち上がり実行することとした。



1.5mほどの丸太だが、40kgほどだろうか、足場の悪い斜面では移動させるのも一苦勞、現場で半割にして運ぶことにした。



9月23・25日 第48回ワーク（追加）

前月のワークで要領を得たので、残りの倒木材を利用して床を完成させるために、さらに追加ワークを行った。参加者は全員自転車を持ち込み、大洞林道のアプローチの時短を図った。



今回の一連のワークで、チェンソーをフルに活用できた。この先、「谷面の手摺」「南面のテラス」も倒木材・間伐材を活用して、修繕できるという見通しがついた。

10月22・23日 第49回ワーク

- ① トイレの整備
- ② 玄関前の凹部埋込を行った。

これまでのトイレは斜面を横切っていたが、その斜面の土留めが崩れ、危険な状態だった。そのトイレを当初予定していたテラス上の一角（トイレブース）を片付けて、使用できるようにした。



玄関前の凹部は、囲炉裏を作る予定の場所だった。そしてこの囲炉裏をおおう形で小屋を増築する予定だった。しかし増築には至らず、野ざらしになっていた。
 ここは、春から秋にかけて、池のようになっていたためカエルのいい住処になっていた。



会員便り

長瀬宝登山の下草刈りに参加して

会員 並木 利夫



長瀬宝登山下草刈り参加者 前列右端が並木さん

長瀬宝登山の下草刈りの範囲は総面積約1haほどあって大体四つの区画に分けられます。頂上に近い方から下へヤマザクラが主な区画とその下の広葉樹を主体とした二つの区画があります。以上三つの区画のほか、東側で傾斜のやや急なケーブル下の区画の四区画が担当の区域です。

一番上のヤマザクラの区域は植えて二十年程経っていますので順調に育っていて、四、五年前から花が見られるようになりました。サクラの樹冠が重なり合い、木洩れ日が地面に届かなくなると下草は生えなくなってきました。

東側ケーブル下の区画は主にレンゲツツジが植えられていますが、どうも順調に育っている様には見えません。毎年下草刈りの時期には人間の背丈ほどの下草でレンゲツツジが見えなくなっている始末です。

ツツジは成長の早い植物で二十年も経てば大きな株に成長する筈です。ツツジは地上部が刈り取られても根が元気であれば、その年か翌春に芽を出すので、次の下刈の時には十分注意をして新芽を切らないように気を付ける必要があります。斜面が急で作業がしずらいですが、事故を起こさないよう十分気を付けていただきたいと思います。

今、下草刈りで最も大変なのは広葉樹の森の区画です。植樹の際に森の主役になってもらいたいと思って植えた樹がまだ十分に育っていないということです。背丈もまだ低く下草に負けてしまっている始末です。植えた樹を探しながら下草を刈っている状況です。この場所は南向きで日当たりも良く植物の成長には最も適した場所であるため、下草の成長も旺盛です。

このところ特に勢力を伸ばしている植物は、クサギでニセアカシアと同じ様に地下茎を四方に伸ばし、その先で新しい芽を吹き、一個体としてまた増殖していくという植物です。その他、全体としてツル伐りの作業も大切になってきます。

これからも下草刈りへ多くの皆様のご参加をお願い申し上げます



広葉樹区画の下草刈りをする並木さん



東側ツツジ区画の下草刈りの様子



2023年 活動スケジュール

活動への参加をご希望の方は、事前に事務局まで御連絡ください。

	総会・理事会	フィールド活動		その他
		和名倉	宝登山	
4月	■会報45号発行 ○4/16(日)常務理事会		◆宝登山 下草刈り作業 日時:4/16(日) 集合:9:00/宝登山 ロープウェイ駐車場前広場	◎福島県田村市植林状況調査 日時:4/10(月)
5月	●5/22(月)理事会 場所:未定	◆第50回和名倉山ワーク 日時:5/27(土)~5/28(日) 集合:8:30/西武秩父駅	◆宝登山 下草刈り作業 日時:5/14(日) 集合:9:00/宝登山 ロープウェイ駐車場前広場	
6月	■第16回通常総会・記念講演会 日時:6/4(日)午後2時00分から 場所:埼玉会館 13:30 開場 14:00~14:50 第16回通常総会 15:00~16:30 記念講演会 16:45~18:30 懇親会 ○6/18(日)常務理事会		◆宝登山 下草刈り作業 日時:6/18(日) 集合:9:00/宝登山 ロープウェイ駐車場前広場	
7月			◆宝登山 下草刈り作業 日時:7/23(日) 集合:9:00/宝登山 ロープウェイ駐車場前広場	
8月	○8/20(日)常務理事会		◆宝登山 下草刈り作業 日時:8/20(日) 集合:9:00/宝登山 ロープウェイ駐車場前広場	
9月				
10月	■会報46号発行 ○10/16(月)常務理事会	◆第51回和名倉山ワーク 日時:10/21(土)~22(日) 集合:8:30/西武秩父駅		
11月	●11/20(月)理事会			◆公開講座 日時:11/12(日) 会場:未定
12月	○12/18(月)常務理事会			

和名倉百年の森 第45号 2023年4月1日発行

発行者: NPO法人百年の森づくりの会 小林公彦

NPO法人百年の森づくりの会 事務局

〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町11-1 コムナーレ9階

さいたま市市民活動サポートセンター内 メールボックスA-71

TEL/FAX: 0480-22-3131

<http://www.100nen-forest.org> e-mail: info@100nen-forest.org